

第5回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日 時	令和7年9月1日(月) 13時00分～15時00分	
場 所	古賀市役所 2階 中会議室	
席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授 柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授 星野 裕司
		株式会社古賀タクシー 代表取締役 後藤 正典
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部経営企画部交通・開発計画 副課長 高橋 拓大
		西日本鉄道株式会社 自動車事業本部地域ネットワーク担当課長 池田 舞
		(代理)福岡県柏屋警察署 交通規制係主任 巡査部長 高木 真一
		古賀市行政区 古賀東区長 高原 伸二
		古賀市行政区 古賀北区長 荒牧 明文
		古賀市行政区 古賀南区長 馬場 實
		古賀市商工会 会長 藤井 博文
		福岡県公立古賀竟成館高等学校 教頭 横田 覚
		福岡女学院看護大学 事務部長 吉松 朋之
		ニビシ醤油株式会社 総務部 取締役総務部長 末松 裕也
	事務局	(代理)独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部事業企画課長 百合草 真人
		建設産業部古賀駅周辺開発推進課
配布資料	オブザーバー	株式会社日建設計 大川 雄三 副島 正成
		株式会社 オオバ 中原 知恵 浅野 耕平 仲松 孝洋 木村 美咲

<議事要旨>

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員・事務局紹介
4. 委嘱書交付

5. 会長・副会長選任

6. 説明および意見交換

(1)これまでの検討経緯について 【意見交換】

(柴田会長)概要版とはいえ感慨深く、これまでの積み上げがしっかりとまとめられている。

(2)JR古賀駅西口周辺整備について 【意見交換】

・今年度実施する(交通・沿道利活用)社会実験について

(委員)社会実験の際、道路を規制する上で自転車はどのような棲み分けで想定しているのか。自転車の棲み分けは地区の悩みになっていると考えている。例えば大橋駅は駅に向かって両端に車道を分け、真ん中を歩行者が通る道にしているが車道が狭いため、自転車の往来が危険に感じる時がある。自転車についても想定しておくべきではないか。

(事務局)自転車は自動車と同じ扱いを想定しているため、自動車と同じように規制する。駅前広場をどう通していくか検討していかないといけないと考えている。

(柴田会長)自転車について「ここからは自転車を押して歩きましょう」などといった想定をしているか。

(事務局)今後検討する。

(星野副会長)自転車の動きについて今年度実施する社会実験で観測することは調査計画の中に入っているのか。市道はすべきだと思う。

(オブザーバー)歩行者と同じ形でカウントすることは可能と考えられるため一度検討したい。

・まちづくりワークショップについて

(星野副会長)10月25日のワークショップについて募集は始めているのか。対象者は3回とも同じ人を想定しているのか。

(事務局)全3回参加できる方、20名程度。対象者は市内在住もしくは市内勤務の予定。

(星野副会長)ぜひ社会実験と連携してほしい。3D都市モデルにおいて、建物の見た目のアリアリティが上がるだけではなくて交通量データも盛り込めるとさらに良い議論ができる。社会実験中はワークショップ参加者には別途マークを付けて他者と棲み分けしておく必要がある。(歩行者調査等の結果に支障ができる可能性があるため)

(事務局)検討する。

・古賀駅西口駅前広場の基本計画について

(委員)資料8の3ページにある古賀駅西口駅前広場のデザインコンセプトに、古賀駅西口ならではの云々との記載があるが、何をもって西口らしいのか。古賀市長が出している理念・言葉を入れた方がいいのではないか。「つながり」、「健やかに」、「みんなで」などは比較的どの場面でも使われている。市の各部署の方針やコンセプトに散りばめることで納得感や団結感ができるのではないか。地域の人が見たときに部署によってばらつきが感じられないようにデザインコンセプトをしっかり考えた方がいいのではないか。

(事務局)意見を踏まえてデザインコンセプトについて再考する。

(委員)今どういう課題があつて、その課題をどうとらえて基本計画に反映しているのか。

(事務局)JR 古賀駅西口周辺整備基本方針に記載している商店街の中(特に線路沿いの道)に通過交通が多いこと、乗降スペースがなく企業バスも多いため駅前が混んでいるといった交通処理が面的な課題。一方、点でみると、憩いの場やイベントができる場所が少ない、緑も少ないなども課題としてある。

(オブザーバー)生活活動線は現況でも機能しているが、特定の道に歩行者の流れが偏っている。憩いの広場や商店街の今ある活動を回遊づくりの中で目をとめてもらう、歩いているうちに気付いてもらうことは課題として認識しており、今後の整備において伸ばしていくところ。これは社会実験を行うことにつながるところで、拠点を作りながら歩きやすい道をつないで周りにつなげていけるかが大きなテーマになる。

(星野副会長)現状、駅を降りて北側にほぼ人が流れている。商店街や西側・南側に人が広がっていくことがまず大事だが、駅前広場だけの整備ではできない。資料8の7ページにある地先利活用スペースのように広場とお店がセットで使える所を準備しようとしている。商売している人がうまく使えるような仕組みづくりとセットにしないとうまくいかない。ハードだけではなくてソフトな面と連携していく必要がある。ポテンシャルはあるが表に出てきていないので、皆さんが出で駅前広場で魅せていくことが大事と考える。

(委員)資料8の5ページの身障者用駐車場はバックで停める想定か。ほかの車との軌跡・安全面上大丈夫なのか。停車する際、後続車は待っておく想定なのか。

(オブザーバー)身障者用の駐車場の運用はバックでの駐車を想定。身障者の方の車は右側か後ろ側で乗降されるケースが基本なので、そこに雨よけを作つてエレベーターに接続する形で整備する。ロータリーの中でバック駐車など使い方の難しさは事務局側でも議論した。一般車のキスアンドライドに身障者駐車場を設置するか、タクシーの乗降スペースの前に設置するなども検討したが、一般車のキスアンドライド側は降車後の駅へのアクセスが遠くなる、タクシー乗降スペース前だと屋根をかけることが難しい。一長一短整理した結果、現状の形とした。

(委員)駅自体はどうなっていくのか。住んでいる人達は計画を見て納得できるのか。

(事務局)市で所管する東西を結ぶ自由通路橋については改修を検討しており、今年度実施する基本設計の中で並行して議論していく予定。JR 古賀駅西口周辺整備基本方針作成の際や、社会実験実施前には事前に説明会を実施している。様々な意見があつたが、今後も具体的なイメージについて共有していきたい。社会実験の報告や整備の進め方等については、今後も関係者と意見交換しながら進めていく。

(委員)駅舎をどうしていくといった具体的に決まったものはない。東口・西口については市と常々情報共有や打ち合わせをしており、今後も引き続き打ち合わせを続けていく。駅を降りてバスに乗り換えやすいアクセス連携を行つていくことは大事であり、賑わいづくりも重要と考えている。駅に寄つてもらえるような賑わいづくりについては協力していきたい。

(3)JR 古賀駅東口周辺整備について 【意見交換】

・駅前広場の変更案について

(委員)計画が変わったことにより、バスの乗降スペースについて公園の部分を狭くして交通の利便性にウェイトを高くすることはないのか。

(事務局)歩行空間を優先したいため、影響がないということを交通事業者に確認できれば必要最小限の駅前広場の案で進めていく予定。

(柴田会長)機能性と広場の魅力を両立させながら検討していくもの。

(委員)山手側にある企業の駅への従業員送迎場所が、現在駅の西口になっている。その影響もあり大渋滞に巻き込まれている状況。今後工業団地の開発もあるので企業が増える可能性を想定すると、東口駅前広場は、余裕を持った設計にしてもらうと企業が安心できるのではないか。

(事務局)企業バス用のスペースを2台設ける計画であり、企業への配慮をしていきたいと考えている。

・JR古賀駅周辺整備デザイン調整会議の実施について

(委員)リーパスプラザが古賀竟成館高等学校に接しているが、今回実施する基本設計による影響はあるのか。

(事務局)今回の基本設計範囲の対象外であるため影響はないが、別途計画している新たな道路整備においては今後協議させて欲しい。

(柴田会長)新たな道路を整備する際は、高校生にとってメリットがあるプラン作りをしてほしい。

(4)その他

(事務局)今後のスケジュールについて、次回の協議会は来年1月か2月頃を想定している。

7.閉会

以上